

## 『からだケアEXPO大阪'22 第2回健康施術産業展』開催

接骨院・鍼灸院など施術業界の商品やサービスを集めた展示会「からだケアEXPO大阪22 第2回健康施術産業展」が昨年11月30日から3日間、インテックス大阪(大阪市住之江区)で開かれた。主催はブティックス株式会社(東京都港区)。

## 治療器やヘルスケア商材が多数

### 高周波温熱機器や電子カルテ、40以上の企業

40以上の企業・団体等が出展し、施術所向けの治療機器・用具、物販商品、自費メニュープログラム、経営効率化のためのシステムなどが披露されたほか、計12の専門セミナーも用意された。3日間の来場者数は「介護」をテーマとした併催展を含めて延べ5528人の上った。

インディバ・ジャパン(東京都目黒区)は、スベイン発の高周波温熱治療器「インディバ・アクティブ」を紹介。0.448MHzの高周波を体内に通電させ、細胞分子の振動・摩擦運動により発生するジュール熱で組織再生などを促す。深層と浅層に作用する2モードを搭載し、手法療法との併用も可能で急



を促す。深層と浅層に作用する2モードを搭載し、手法療法との併用も可能で急ト集客の機能が揃ったオンライン集客も実施。40以上の企業・団体等が出展した。

ライオンサービス「鍼灸つながるカルテ」を訴求。スマートフォン・タブレット上で、経穴や筋肉を記した人体図を直接タップしていくカルテは、直感的な操作で施術情報を手間なく記録できる。予約票との連携や写真で患者ごとの経時的変化を追える機能も搭載。3日間を通じて商談予約も入り、ブースに足を運ぶ鍼灸師のほとんどは「前々から知っていて興味を持たれていた先生」だったと担当者。月額3300円で利用可能で、会期中の成約もあつたと話す。

ダイヤ工業(岡山市南区)は、腰の状態やライフスタイルなどに合わせてパーツの組み替えが可能なコルセット Bonbone Adjust(ボンボーンアジャスト)「腰」を出展した。着脱可能な「まえ」「うしろ」「オフショウ」の3つのパーツごとに強度や形などが異なる種類を用意しているセミオーダー製品。「接骨院では施術と施術の間、患者サポートに活用し」と語った。

参加者「足に特化したメニュー、勉強に」

上田氏によるセミナーの様子

上田孝之氏ら業界有識者が登壇し、業界動向や院経営のポイントを講演した。名古屋から来たという接骨院の院長は、自院で足のケアを自費メニューで展開しており、「足部に特化した治療プログラムやトレーニング法などのブースもあり、勉強になった」と話した。

## 不妊鍼灸は一日にして成らず

### そして生殖鍼灸へ

### 第57回 「DOHaDと妊婦の運動」



京都なかむら第二針灸所、  
東東鍼灸整骨院・鍼灸部門総院長

### 中村一徳

法学部四回生時に鍼灸師となる。一般社団法人JISRAM(日本生殖鍼灸標準化機関)相談役。香川厚仁病院産婦人科鍼灸ルーム監修、レーザーLiプロダクション学会理事、鍼灸SL研究会参加。

今回DOHaD(Development Origins of Health and Disease)仮説の最終回として、妊婦の運動が子どもの体質形成にどのように関与するか、というお話です。患者さんから「(体外受精

が、生まれてくる子どもに影響し、それは生後に取り返しのつかない体質として定着してしまう。これがいわゆるDOHaD仮説です。

の「胚移植の後、安静にしなければならぬ」とよく質問を受けます。答えは「否」です。普通にと考えて悪いと分かっていること以外の制限はありません。なぜなら自然妊娠で、胚盤胞が着床する頃に意識して安静心がけている人は、ほぼ皆無だからです。ゴルフ、水泳、ジム、いろんなことを平然と行なっています。もし着床時に運動をしていたら妊娠しにくいという傾向があるとするなら、約2000万年前のHomo Habilisから約40万年前のNeanderthalに至る進化の過程、そして以後Homo Sapiensとなつてから今までの間で、そのような個体は当然出生率が低下して、淘汰されているに違いないからです。先進国は特にこの数十年間で、かつてない運動不足の時代を迎

えています。このため多少の運動をこさらに異常に考えてしまふのではないのでしょうか。ただ誤解のないように言っておきますが、運動と体の酷使は明確に区別する必要があります。

次に、妊娠時の運動はした方がいい、ということの説明します。妊娠中に運動不足や過食などで肥満になった妊婦から生まれた子どもは、栄養不足の妊婦から生まれた子どもと同様、出生後は肥満傾向にあります。つまり妊娠前の体重と比較して妊娠中の体重増加は、少なすぎても多すぎても子どもに悪影響を及ぼします。体重を適切にコントロールするには、食事と運動が重要な要素です。さらに妊娠中の運動は単なる体重管理のみならず、出生時においては満期出生率や正常分娩率の上昇、

巨大児リスクの低減、新生児においては身体運動能力が高い可能性が示されています。さて、ヒトは生殖周期が長すぎて大変な年月を必要とするため、ラットを用いた実験をお話します。①妊娠前、②妊娠中、③その両方で運動をさせた場合の子の代謝への影響を調べたところ、最も効果が高かったのは③、最も効果がなかったのは①でした。つまり妊娠前から妊娠中の継続した運動が、子どもの健康に効果的だと分かったのです。それらは胎児の肝臓におけるグルコース産生の減少、ミトコンドリア合成、細胞内呼吸に関する遺伝子発現の増加として現れました。それらが胎児に現れるのは、マウスでは肝臓が形成される胎生13.5日頃から生後まで続くことが分かりました。ところが母親由来のタンパク質は血液胎盤門を通過され胎児に作用することはできません。しかし胎盤で形成されるタンパク質(トラセントカイン)は、臍帯血、母体血の両方で検出されるので、これがその役割を担っていると考えられます。つまり母親の運動は胎盤を刺激して有用な物質を産生させ、子どもの正常な発育を促進するわけです。

## あなたの頑張りを応援します

開業したい  
健康保険を取扱いたい  
職業賠償保険に加入したい  
業界の動向を知りたい

大阪鍼灸マッサージ協同組合は、このようなお悩みを解決! ご相談ください。

労災保険取扱いは厚生労働省と協定を結んでいます 資料請求無料

### 大阪鍼灸マッサージ協同組合

〒530-0057 大阪市北区曽根崎2-2-1 TEL06-6315-0035

WR3 3DEMS 採用  
ボディコンディショニング  
— ラクリス —  
**Rakulease**  
特許出願中

身体に関わる全ての人に  
マッチングしたセラピーシステム